

常光寺々報

2020年9月

秋季彼岸会法要

九月十九日(土)

十時半～十一時半 住職

九月二十日(日)

十時半～十二時 前住職

本当のものが

わからないと

ほんとうでないものを

本当にする

安田 理深

「法語カレンダー」より

まだまだ収束の兆しが見えてこないコロナ騒動の中での開催となります。

今回も対策として、時間を短くして、二座に分けてお勤めします。いずれかのお座におまいりください。

暑さ寒さも彼岸までといえます。お彼岸の頃にはいくらか涼しくなっていることを期待しますが、空気循環のため、本堂は扉を開け放ち、冷房と扇風機を併用いたします。

各自でお経本とお念珠をお持ちください。マスクの着用もお願いいたします。



一〇〇年を一世紀と区切つてひと昔と言われていたのが、一〇年ひと昔となり、若者には一年ひと昔なんだなあと感じていたのに、今ではひと昔どころか半年前の常識が非常識といわれる時代になりました。そんな昨今ですが、仏さまのお慈悲は変わることはありません。変わらぬお慈悲をお聞かせいただきたいと思えます。

今回もこのような状況のため、ご講師の先生をお願いすることはできませんが、秋彼岸のご縁を大切にして、ご一緒にお勤めさせていただきます。

行住坐臥

ぎょうじゅうざが

五月の末に車が壊れて、新車購入となりました。

前の車の購入から十年以上

が過ぎていますが、技術の進歩には驚かされます。車線をそれたと警告してくれたり、勝手にブレーキをかけてくれたりします。なるほど自動運転車の到来も遠くないと感じました。

人がしてきたことを機械がしてくれるようになる。便利な世の中になりましたが、反面、かつて誰でも当たり前にしてきたことをできない人が増えてきました。信じられませんでした。したが、マツチを擦れない若者がいるそうです。考えたら私も釜戸でご飯を炊くことができません。

技術だけではありません。法事や葬儀の時にお念仏の声が聞こえないことも多くなってきました。

かつては、「行住坐臥時処諸縁をきらわず」といわれているように、歩いているときも、坐

っているときも、寝転んでいるときも、畑仕事のときも、風呂に入っている時も、いつでもどこにいてもお念仏する姿がありました。

仏さまの前に座り、手を合わせてお念仏する。

いつまでも変わらぬ姿であつてほしいものです。

ひとつひとつの
かけがえのない時間



法事の席で、あるお母さんが話し始めました。

「うちの娘は中学生になりロクに勉強もしないし、会話もない。昨日はピアスをあけたいと言いだして大ゲンカしたんですよ。毎日ケンカばかりです。」

私が返答に困っていると、高

齢の男性がなんともいえない笑顔で語り始めました。

「ウチの娘は結婚して遠くに行つてしまつた。新しい家族が出来たことは嬉しいけど、なんとも寂しいね。もうケンカもできん。家族と一緒に生活できる時間つて、長いようで短いよ。大いにケンカしたらいいよ。」

それを聞いたお母さんは考え込んでしまいました。

確かに子育て真っ最中の人が見る景色と、子育てを終えて振り返つて見る景色は違うのでしよう。高齢の男性の言葉は、大切なことを教えてくれます。（むらかみけん）

「仏教こども新聞」より
本当に、家族と一緒に生活できる時間つて、長いようで短いのでしよう。わが家もいつまで一緒に過ごすことが出来るのだろうか。